

普及センターだより

No.127

MISATO

発行 宮城県美里農業改良普及センター

〒987-0005 遠田郡美里町北浦字笹館5

TEL (0229) 32-3115 E-mail msnokai@pref.miyagi.lg.jp

FAX (0229) 32-2225 URL <https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>

酒造好適米新品種「吟のいろは」生育調査の様子

普及の窓 「新たな目標に向けて」

美里農業改良普及センター
次長(総括担当) 菅野 敦

国内における新型コロナウイルス感染症の影響が出始めてから約1年が経ちました。当初は、特定の国や地域の出来事のように思っていた方も多かったと思いますが、今や身近にある脅威として、地域経済にも影を落としています。日本の農業は、コロナ禍以前より、人口減少による需要の縮小や高齢化による担い手不足等、様々な課題が指摘されていましたが、更に新型コロナによる様々な情勢の変化にも対応しなければならない状況となっています。

このタイミングで県では、宮城県農業の食と農に関する総合的な計画として策定している「みやぎ食と農の県民条例基本計画」の第3期がスタートします。令和3年度からの10年を期間とし、「共創力強化 ～多様な人材が豊かな未来をつくる みやぎの食と農～」をキャッチフレーズとして、様々な取組を展開してまいります。普及センターでは、この難局をチャンスに変えるべく、地域の皆さんと共に考え、活動していきたいと思っております。

令和2年度プロジェクト課題紹介

集落営農組織，酒造好適米「吟のいろは」，こねぎ，3つをキーワードに取り組みました

地域農業の維持・発展に向けて法人化した集落営農組織の経営安定化

(農)タカギ農産(美里町)は平成29年に設立された農事組合法人であり、比較的小面積の法人ですが、収益性の高い転作作物を主体とした経営の確立を目指しています。昨年度から土地利用型の園芸品目として加工業務用のニンジン等に取り組んでおり、大豆の管理作業との労力競争を避けるため、作前のカットドレン処理による排水性確保と中耕培土の省略、狭畦栽培における条間の最適化、および除草剤の一発処理等の作業体系の確立を支援しました。その結果、オペレーターの園芸部門に係る労働時間を確保でき、かつ大豆も十分な収量が得られました。また、育苗ハウスを活用した業務用レタス栽培にも取り組み、労力の有効活用が図られました。あわせて、今年からタカギ農産を含む中塚地区の3法人で産地形成組合が形成され、作業計画の打合せやニンジン、レタスの契約販売先へのリレー出荷等、法人間の連携が進みました。



地域の特徴を活かした「吟のいろは」の産地化の実現

酒造好適米新品種「吟のいろは」の栽培管理技術の早期確立を目標に、農産物検査等級「特等」格付を目指し、JA新みやぎみどりの地区本部、松山町酒米研究会の「吟のいろは」生産者と連携して展示試験を行いました。目標収量構成要素を仮設定し、肥培管理の検討を進めてきた結果、緩効性の流し込み追肥を行った展示区において宮城県育成品種としては初の快挙となる「特等」格付となりました。また、産地化支援の一環として、県酒造組合及び大崎管内を中心とした実需者との意見交換を行いました。9月には、県内の実需者と「吟のいろは」生産者が一堂に会する現地視察・交流会を開催し、相互理解につながりました。



来年度は、今年度収集したデータを元に生育指標を再設定し、検証を行いながら栽培暦にとりまとめていくとともに、産地化の実現に向け、実需者や関係機関との意見交換を継続していきます。

美里農業改良普及センターホームページでは、過去に発行した稲、麦、大豆などの技術情報がご覧になれます。詳しくは<https://pref.miyagi.jp/site/misato-index/>まで!!

持続的な生産へ向けたこねぎ栽培技術の向上

JA新みやぎみどりの地区本部、JA新みやぎ仙台こねぎ部会と連携し、今年度から2か年計画で、当プロジェクト課題に取り組んでいます。

今年度は、若手生産者を中心とした部会員の栽培技術向上のために、熟練生産者の栽培管理技術を記録・データ化し、「栽培技術の見える化」を目指して取り組みました。

また、土壌病害対策の他、適切な灌水量の確保や土壌物理性の改善等、栽培管理の見直しを行うことで、さらなる高品質・安定生産が見込まれることが明らかになり、部会員の方々と、それぞれ課題の改善に取り組んでいます。来年度も継続して、「栽培技術の見える化」や病害虫・土壌環境改善等に取り組む、さらなるこねぎの収量向上及び高品質生産を支援していきます。



重点的な普及活動の紹介

青ねぎ、新規就農、台風からの復興、「金のいぶき」をテーマにした活動項目について重点的に支援を行いました

活動項目	活動内容	対象
園芸産地の育成に関する取組	加工・業務用野菜である「青ねぎ」の産地育成に向けて活動しています。現地検討会では、薬剤防除において適切な散布水量でムラなく散布することの重要性について情報提供を行い、現地巡回では生育調査と調査に基づいた栽培管理支援を行いました。	・管内青ねぎ生産者
新規就農者の確保・育成に関する取組	新たに農業経営を営もうとする就農希望者に対し、営農計画の策定支援や、就農後には、ほ場において栽培技術の指導を行っています。また、「新規就農者のための経営講座」を開催し、経営者マインドの醸成を進めています。	・学生 ・教育機関 ・農業研修生 ・新規就農者 (自営・雇用)
令和元年東日本台風からの復興支援	令和元年東日本台風により甚大な被害を受けた大崎市鹿島台志田谷地地区では、被災農業者支援型事業により営農再開に向けて農業機械や施設等の復旧や浸水した農地での栽培を支援しました。被害の爪痕は残っているものの、積極的な営農展開を支援しています。	・被災農業者 ・大崎市鹿島台志田谷地地区
「金のいぶき」による地域活性化支援	「金のいぶき」は玄米食が人気の水稻品種で、涌谷町を中心に作付されていますが、従来品種と比べて収量が安定しない品種特性があります。当活動では、栽培塾や現地検討会等による生産性向上・安定化による産地形成を軸に地域活性化を支援しています。	・管内「金のいぶき」生産者

管内農業の動き

農産物品評会 受賞おめでとうございます!!

令和2年10月に宮城県農林産物品評会及び花き品評会が開催されました。管内からは、うるち玄米8点、果実1点、野菜10点、花き11点が出品されました。その結果、大崎市鹿島台の(有)マルセンファームの Sprey-guk 「シューセレモニー」が、金賞、宮城県議会議長賞及び株式会社仙花代表取締役社長賞を受賞されました。また大崎市鹿島台の遠山忍氏のビオラ「バニーイヤーズ」が銀賞を受賞されました。受賞おめでとうございます。



「精進料理の会」の活動について(手洗い研修会)

小牛田地域精進料理の会は、毎月1回、精進料理の伝承として、調理実習を中心に活動を行っています。10月の定例会では、正しい手洗い方法を学ぶための「手洗い研修会」を行いました。普及センター職員から講義を行った後、手洗いの実習を行いました。実習は、「手洗いチェッカー」を使用し、汚れに見立てた専用ローションを付けてから手を洗い、洗い残りを確認しました。会員からは「丁寧に洗っているつもりでも洗い残しがあることが分かった。」など感想が聞かれ、より一層、衛生管理に気をつけて調理することを申し合わせました。



新型コロナウイルス感染症が拡大していることに伴い、農業者の営農活動への影響が懸念されるため、美里農業改良普及センターに農業経営相談窓口を設置しています。農業経営や融資制度に関する御質問など、お気軽に御相談ください。

～農業における新型コロナウイルス感染者発生時の対応・業務継続に関するガイドライン～（農林水産省から抜粋）

1. 予防対策の徹底

厚生労働省等の情報に基づいて、徹底した対策をお願いします。（3密を避けるなど）

2. 患者発生時の患者や濃厚接触者への対応

患者が発生した場合は、保健所の指示に従い対応してください。

3. 生産施設等の消毒の実施

保健所の指示に従って、感染者が作業に従事した区域の消毒を実施します。

※一般的な衛生管理が実施されていれば、感染者が発生した施設等は出荷停止や農産物廃棄などの対応をとる必要はありません。

4. 業務の継続

あらかじめ地域の関係者が連携する体制の検討をお願いします。

(詳細は、https://www.maff.go.jp/j/saigai/n_coronavirus/ncv_guideline.htmlをご覧ください。)